

令和2年度 松江市行財政改革推進委員会 会議録

- 1 日 時 令和2年10月22日（木）午後2時から午後3時30分まで
- 2 場 所 松江市役所本館西棟5階 防災センター
- 3 出席者 (1) 委員10名
山本会長、塩谷副会長、三宅副会長、勝部恵治委員、勝部廣三委員、
岸本委員、野々内委員、廣田委員、松村委員、山口委員
(欠席：大塚委員)
- (2) 松江市行財政改革推進本部27人
本部長（市長）、総括副本部長1人、副本部長8人、
本部員13人（うち代理1人）、事務局4人
- 4 次 第
- | |
|---|
| 1 開会 |
| 2 市長挨拶 |
| 3 委員の紹介 |
| 4 会長及び副会長の選出 |
| 5 議題
行財政改革実施計画の検証
・令和元年度 松江市行財政改革の実施状況の概要及び5年間の成果
・令和元年度 実施報告書 |
| 6 その他 |
| 7 閉会 |
- 5 会議経過 別記のとおり
- 6 事務局 松江市 総務部 行政改革推進課 電話 0852-55-5193

会議経過

1 開会

○事務局(行政改革推進課管理係長)

ただいまから令和2年度、松江市行政財政改革推進委員会を開催させていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

本日の会議は、新型コロナウイルスの感染防止対策として、ウェブ方式を採用し、松江市役所会場と、委員の山本様、塩谷様、廣田様、岸本様を通信で繋ぎ開催いたします。本委員会では初の試みですが、スムーズな運営に努めて参りますのでよろしくお願いいたします。

それでは議事に入ります前に、留意事項がいくつかございますのでご説明いたします。市役所会場の方は、机の上に配布した席次表の裏面にも、留意事項を記載しておりますのでご覧ください。

ウェブ会議を行う都合上、発言される際は、お名前と、発言されたい旨を議長に伝え、了解を得てからお話してください。発言は1人ずつ、ややゆっくり目をお願いいたします。市役所の防災センターにご参集の方は発言時に、卓上マイク、またはハンドマイクを使用してください。卓上のiPadを操作する必要はございません。卓上マイクは銀色の四角のボタンがスイッチです。スイッチを押して、赤いランプがついてから話をしてください。また、本日は、新型コロナウイルスの感染防止対策のため、例年2時間程度の会議を1時間半に短縮しております。その点、ご了承いただきますようお願いいたします。留意事項は以上でございます。

それでは、開会にあたり、市長がご挨拶申し上げます。

2 市長あいさつ

○市長

それでは、令和2年度の松江市行政財政改革推進委員会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

本日ご出席を賜りました皆様方、本市の行政財政改革推進委員会委員にご就任を賜りましたこと、厚く御礼申し上げたいと思います。

これから2年間ということがございますけれど、本市の行政財政改革の取組について、ご提言、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本日は新型コロナウイルス拡大防止のため、市役所と外部をつなぐウェブ方式による会議とさせていただきます。東京の山本先生をはじめ、外部からの参加の皆様、そしてご来庁いただきました皆様の、いずれのご協力に対しまして、感謝を申し上げる次第で

ございます。

さて、松江市では、最大の問題は人口減少社会へ対応ということでございます。「総合計画・総合戦略」におきまして、「選ばれるまち松江」を将来都市像として掲げ、その実現に向けまして、頑張っていこうということにしているわけでございます。本年度からスタートしております「第2次総合戦略」でございますけれども、新たに「若者と女性をもっと暮らしやすいまち」を重点目標といたしまして掲げております。特に今、人口減少の最大のポイントというのは、若い女性がどんどん外に出て行かれる、そしてなかなかこちらに帰って来られないというのが、人口減少の大きな要因と分析をいたしております。そういうことで、特に若い女性を中心といたしましたご意見をまちづくりに生かしながら、雇用創出、出産、子育てへの支援、そういったものに、取り組んでまいりたいと思っております。

この「地方創生」でございますけれども、実現していくためには、持続可能な財政基盤というものが何よりも必要でございます。したがって、行財政改革といたしまして、事務事業の大胆な見直し、職員の適正な定員管理、公共施設の適正化、こういった取組を、市民の皆様のご理解を得ながら進めてまいらなければならないと思っております。

また、国の方では新しい内閣、菅内閣が発足いたしました。その中で、ハンコの廃止、手続のデジタル化ということが言われております。松江市におきましてもハンコの廃止につきましては、私も随分前から職員に指示しているところでございますけれども、その中で昨年度策定いたしました第3次行財政改革大綱においても、AI、RPAの導入、文書のデジタル化、電子決裁などを進めていくことを掲げております。

特に押印は、デジタル化の支障になることから、見直していくことが必要だと思っております。全国的にこうした問題に取り組まれるということになっておりますので、松江市におきましても適切かつ速やかに対応していきたいと考えております。

本日は、第2次行財政改革実施計画の最終年度でございます。令和元年度の実施状況と実施期間5年間の実績につきまして、報告をさせていただくことにいたしております。

どうぞ皆様方には、大所高所からの忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 委員の紹介

○事務局(行政改革推進課係長)

続きまして、委員にご就任いただきました皆様をご紹介します。名簿と座席表を併せてご覧ください。まず、外部からウェブ参加の方から五十音順で紹介いたします。

岸本委員でございます。

○岸本委員

労働団体連合島根松江隠岐地域協議会からまいりました岸本でございます。どうぞよろしくお願ひします。

○事務局(行政改革推進課係長)

塩屋委員でございます。

○塩谷委員(副会長)

島根県立大学の塩谷と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局(行政改革推進課係長)

廣田委員でございます。

○廣田委員

日本政策投資銀行の廣田でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局(行政改革推進課係長)

山本委員でございます。

○山本委員(会長)

大学入試センターの山本でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局(行政改革推進課係長)

続いて、会場にお越しの方をご紹介いたします。

勝部恵治委員でございます。

○勝部恵治委員

松江市PTA連合会から来ました。勝部と申します。よろしくお願ひいたします。

○事務局(行政改革推進課係長)

勝部廣三委員でございます。

○勝部廣三委員

自治会連合会の勝部といいます。どうかよろしくお願ひいたします。

○事務局(行政改革推進課係長)

野々内委員でございます。

○野々内委員

松江市社会福祉協議会から出ております。野々内です。よろしくお願いいたします。

○事務局(行政改革推進課係長)

三宅委員でございます。

○三宅委員(副会長)

松江市公民館館長会の会長をしております、三宅でございます。どうかよろしくお願いいたします。

○事務局(行政改革推進課係長)

松村委員でございます。

○松村委員

山陰中央新報社の松村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局(行政改革推進課係長)

山口委員でございます。

○山口委員

松江商工会議所女性会の副会長の山口と申します。初めて参加いたします。よろしくお願いいたします。

○事務局(行政改革推進課係長)

また、大塚委員におかれましては、所用のため欠席でございますので、ご報告いたします。

4 会長及び副会長の選出

○事務局(行政改革推進課係長)

続きまして、会長、副会長の選出を行います。まず、お配りしております、松江市行財政改革推進委員会設置要綱について、この度改正をしております。これまで、会長1名、副会長1名としておりましたが、副会長を2名以上選出にすることができるよう、人数の規定を

削っておりますのでご報告いたします。

それでは、会長、副会長の選出についてでございます。本委員会の設置要綱の規定において、「会長及び副会長は、委員の互選とする。」となっておりますが、事務局で予めお願いしている方がございます。事務局から提案してもよろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、ご提案をさせていただきます。会長に山本委員、副会長に塩谷委員、三宅委員をご提案いたします。いかがでしょうか。

(委員より拍手)

ありがとうございます。皆様のご承認をいただきました。それでは、山本委員に会長を、塩谷委員、三宅委員に副会長をお願いいたします。

それでは、さっそく議事に入りたいと思います。議長につきましては、本委員会の設置要綱の規定により、会長をお願いすることとなっております。山本会長、よろしくお願いたします。

○議長（山本会長）

山本でございます。どうぞよろしくお願いたします。前期も会長職を務めさせていただきました。先ほど市長のお話にございましたように、本実施状況に忌憚ない意見を言っていただいでご議論できればと思いますので、どうぞ委員の皆様方、ご協力よろしくお願いたします。そして冒頭事務局の方からもございましたように、松江市では会議は1時間以内にするという内規でいろんな会議を運営しておられるようです。今日は1時間半頂戴しておりますが、冒頭の市からの説明がございますので、委員の皆様方からご意見いただく時間が1時間とっていただいで1時間半ということでございます。非常に重要な課題ではありますが、事情御賢察の上、ご発言に当たりましては、簡潔に、ご質問、ご意見いただき、それでまた事務局の方におかれましても、簡潔にお答えいただきますように、もう一度お願いたしました、会長職のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

5 議事

○議長（山本会長）

それでは早速ですが、これより議事に入りたいと思います。

本日の委員会につきましては、松江市情報公開条例の規定により、原則公開となっております。特段に非公開の基準に該当するものがあれば別ですが、事務局の方いかがでございますでしょうか。

○事務局(行政改革推進課係長)

事務局でございます。非公開基準に該当する議題はございません。

○議長（山本会長）

それでは本日の会議は公開によって行うということでございます。よろしくお願いいたします。

それではお手元の議事次第に沿って進行をさせていただきます。まず、行財政改革実施計画の検証について、ということでございます。事務局の方からご説明をお願いいたします。

○事務局（行政改革推進課長）

失礼いたします。事務局より説明をさせていただきます。

お手元の資料「令和元年度 松江市行財政改革の実施状況の概要」という表題の1ページ目をご覧くださいと思います。

本市の第2次行財政改革の取組は、平成27年度から令和元年度までの5年間の計画期間としまして、当初72項目、最終75項目の実施計画項目を設定いたしまして、全部局を挙げて取組んでまいりました。

2点目の5年間の目標効果額につきましては、当初の目標効果額は表右下の47億7千万円余りでございましたが、使用料の改定や公共施設適正化の対象施設の増設など、計画の変更を反映させておりまして、最終の目標総額は82億円余りとなっております。

3点目は、行財政改革の取組実績でございます。令和元年度の取組効果額は、24億6千万円余りで、その下に記載しております令和元年度目標効果額に対する達成率は156%でございました。平成27年度から令和元年度までの5年間の累積効果額は、93億3千万円余りで、5年間の目標効果額に対する達成率は113%でございました。

4点目は、令和元年度の主な取組項目と、その実績効果額でございます。要素項目の「アワビ等水産物生産施設の経営健全化」から、一番下の「職員定数の適正管理と年齢構成の是正」までの計9項目の実績効果額は、合計で14億円余りでございます。

続きまして、2ページ目をご覧くださいと思います。

さきほど申しました5年間の累積効果額93億円のうち、主な取組項目を載せております。要素項目の「建設発生土の有効活用の強化」から「職員定数の適正管理と年齢構成の是正」までの計11項目の実績効果額は、合計で74億3千万円でございます。

3ページ目をご覧くださいと思います。

行財政改革の成果を載せておりますが、その① 財政の健全性におきましては、平成17年度からの15年間で、地方債残高を473億円削減、基金につきましては財政調整基金を増やしながら50億円程度を確保。

4ページ目上のグラフをご覧ください。

実質公債費比率は11ポイント改善、将来負担比率は、138ポイント改善しました。

その② 歳出予算におきましては、棒グラフの青色部分でございますが、扶助費が2倍以上に増加したこと、また合併算定替による歳入減少の影響額が69億円あった中で、人件費や公債費の削減などによりまして、歳出総額を1,000億円前後に抑制してきました。

5 ページ目をご覧くださいと思います。

このような行財政改革の取組が下支えとなりまして、総合計画・総合戦略に掲げた「選ばれるまち松江」の実現に向けまして、平成27年度は、ふるさと奨学金の拡充や、小学校舎改築事業。28年度は、保育料軽減の拡充や、国宝松江城調査研究事業。29年度は、中核市移行準備や、ジオパーク推進事業。30年度は、松平不昧公200年祭や、国宝松江城マラソンの開催。令和元年度は、ホーラエンヤ事業や、新バス運行情報提供システム整備など特色あるまちづくり施策を実施してきております。

6 ページ目をご覧くださいと思います。

これまでの取組が実を結びまして、5年間に様々な全国的な評価や認定をいただきました。その中でも特に「松江城天守の国宝指定」は、松江市において最も大きな効果があったと思います。概要及び5年間の成果の説明は、以上でございます。

続きまして、「松江市行財政改革実施計画 令和元年度 実施報告書」という表題の資料をご覧くださいと思います。

表紙をめくりまして、1 ページ目 A3 の資料を載せておりますが、これをご覧くださいますと「令和元年度 実施状況」の総括を載せております。この総括表の横軸の構成は、左側から3つの基本方針、(1) から (18) までの取組項目、75項目ある要素項目のページ番号、ナンバー、要素項目の名称、担当課、そして令和元年度の進捗度評価、現年度効果額、5年間の累積効果額、計画変更後の効果額目標、という順に記載をしております。総括表の中で、網掛けがしてある項目は、平成30年度までに取組が完了した要素項目で、6ページ以降の「前年度実施報告」への掲載は割愛させていただきました。

総括表の中央右に記載した進捗度評価でございますが、「S評価」が計画以上の進捗、「A評価」が計画どおりの進捗、「B評価」は遅れている、その次の「計画変更」と「中止」を合わせて5区分の評価となっております。

総括表の4ページ目をご覧くださいと思います。

総括表の一番下の「合計」の欄をご覧ください。令和元年度における全体の進捗状況を記載しております。「S評価」が2項目、「A評価」が50項目、「B評価」が5項目、「計画変更」が2項目、「中止」が0項目でございました。進捗度で、A評価以上の割合が、88.1%でした。

それでは、次に要素項目の取組内容で、計画以上の進捗「S評価」、遅れている「B評価」、計画変更した項目を、掻い摘んで説明をさせていただきます。

8 ページ、9 ページをご覧ください。「建設発生土の有効活用の強化」では、庁内情報共有シート「縁結びシート」により、建設発生土の工事間流用を行い、建設発生土の処分及び購入土に係る経費の削減に取り組んだものでございます。5年間の目標効果額約6千万円に対しまして、5年間の実績効果額は1億3千万円余りでございました。令和元年度の実績効果額は3千5百万円余りで、S評価でした。

76 ページ、77 ページをご覧ください。「未利用財産の処分並びに利活用」では、処分可

能な財産を売却するための効果的な周知方法を研究し、財産の売却及び貸付に取組んだものでございます。5年間の目標効果額は16億円余りに対し、5年間の実績効果額は19億円余りでございました。令和元年度につきましては、池上住宅跡地、湖南テクノパーク残地、国道9号沿用途廃止分など13物件の売却が進んだもので、実績効果額は3億5千8百万円余りで、S評価でございました。

16ページ、17ページをご覧ください。「福祉バスの補助制度化によるサービスの拡充」では、平成28年度に支所バスと福祉バスを統合して、貸切バス事業を利用した各団体への補助制度に移行する方向性となりました。

平成29年度から30年度には、制度移行に向けまして関係者との調整を図りましたが、関係者の理解が得られなかったことから、もう一度、制度設計に取り組むこととなりました。令和元年度は、制度設計について関係課と再検討を行ってきましたが、検討に時間を要したため「B」評価でございました。

50ページ、51ページをご覧ください。「地域における要配慮者支援体制の構築」では、高齢者や障がい者等の要配慮者を地域で支える「共助」の仕組みづくりを、令和5年度までに全市の70%、6万世帯の設置を目標に掲げています。令和元年度は、未設置地域での説明会を行い、新たに22組織が設立され、世帯カバー率が37.9%まで上昇しましたが、目標でした44%に届かなかったことからB評価となりました。

94ページ、95ページをご覧ください。「自動車運送事業の経営健全化」では、定期及び貸切旅客運送事業が新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、3月の輸送人員が大幅に減少し、事業収益も減収したためB評価でございました。

114ページ、115ページをご覧ください。「職員の意欲・能力を高める人事評価制度の再構築」では、令和元年度の職員アンケートの結果で、評価者に対する信頼度は76.4%と向上しましたが、評価制度の信頼度が40.3%と目標に届かなかったことからB評価でございました。

120ページ、121ページをご覧ください。「署所再編実施後期計画」では、署所再編計画の最終段階である北分署が令和元年度に開署することによりまして、松江市全域の救急車に救急救命士が乗車して救急救命処置の早期介入が可能となり、救命率の向上を図るものでございます。この計画はこれまで予定通り進んでおりましたが、市道古浦西長江線整備事業の完成時期が8カ月遅れたため、庁舎建設を令和2年度に延期したことからB評価となりました。

30ページ、31ページをご覧ください。「民間住宅を活用した借上型市営住宅事業の実施」では、市営住宅の新築等の建築費を抑制するため、民間住宅の「借上型市営住宅事業」を実施してまいりました。平成29年度に市営住宅や住宅確保要配慮者等の実態調査を行ったところ、市営住宅の申込倍率がそれほど高くないことが判明いたしました。加えて、民間の低家賃アパートの空き家も少なくないという実態から、令和2年度に策定する次期「公営住宅等長寿命化計画」の中で、将来的な需給の見通しを再検討する必要があると、計画変更をしたもので

ございます。

66ページ、67ページをご覧ください。「次期行政情報システムの導入に向けた検討」では、現行のシステム「ミサリオ」は、令和3年度で長期契約が終了するため、システム更新に向け、調達仕様書の作成を進めておりました。そうした中、総務省の方から、2020年代にスマート自治体を実現するため「各自治体が原則としてカスタマイズせずに利用する姿を実現する」という方針が示されました。本市の行政情報システムは、効率を高めるため多くのカスタマイズを実施しており、今後は専門的知見によるシステムの総合的な管理運営の検討が必要となりました。そこで、現行システムの契約を延長し、次期システム稼働時期を令和9年度とする計画の見直しを行ったものでございます。

事務局からの説明は以上でございます。

○議長（山本会長）

ありがとうございました。ただいま、概要並びに個別案件についてご説明いただきました。これから、委員の皆様からのご発言をお願いしたいと思います。それでは、まず開催通知の際にお送りさせていただきました、事務局への事前質問、ご意見、これを送っていただいた方を指名させていただいて、その後、送っていただいていない方、また時間がございましたら、一度発言をされた方も含めて、意見を伺いたいと思います。冒頭申し上げましたとおり、質問は大変恐縮ですが1つか2つに絞っていただいて、簡潔をお願いしたいと思います。

それではまず、予めご意見ご質問をいただいております、廣田委員からお願いをいたします。よろしく願いいたします。

○廣田委員

はい。政策投資銀行の廣田でございます。皆様、聞こえますでしょうか。

○議長（山本会長）

はい、聞こえます。

○廣田委員

はい。私の方から大きく2点質問させていただきます。

まず一つ目は、取組項目（7）電子化とICT利活用推進についてです。

住民の利便性を高めたり、迅速かつ正確にサービスを提供したり、業務を効率化するために、電子手続の拡充とか地域行政システムの導入は必要なことであり、冒頭の松浦市長からのご挨拶でも同様の趣旨のことを述べられていたと思います。更に、コロナ禍によって一層強力な推進が求められており、新政権も政府のデジタル化を素早く進めるという方向性を持っています。

一方、ちょうどページでいいますと 67 ページ、先ほどご説明がありました次期行政システムにつきましては、更新を 5 年間延長した方が良いとの判断をされた。昨年度の時点では妥当な判断だったと思いますが、今のコロナの状況とか新政権のデジタル化をスピードを持って進めていくという方向性を考えると、更新を延長するのではなく早急にシステムを整備していく必要があるのではないかというような疑問を持っています。ICT 推進委員会では是非議論していただければと思います。

また、政府や自治体のデジタル化にあたっては、自治体と国との間でのデータ共有、システム連携が必須になると思います。デジタル化の一番の目的は住民の利便性を高めるためですが、住民にとって国とか都道府県、市町村、一番身近な自治体はどこかということ、市町村であると思っています。よって、島根県においては、このような政府のデジタル化とか、自治体間のシステム連携を推進するにあたっては、松江市が住民の立場を代弁し、イニシアティブをとって進める立場にあると思います。是非とも住民代表との気概をもって積極的に進めていただければと思っています。以上が取組項目(7)についてです。

二つ目は、取組項目(9) 広域連携についてです。こちら 73 ページ目をご覧ください。ページの一番下に成果指標として、(1)圏域への観光入込客数、(2)圏域での外国人宿泊数、が掲載されています。これはこれで問題ないのですが、観光を振興する目的は、観光客に地域を周遊して楽しんでもらい、その成果としてお金を払っていただくことです。であるならば、松江にどれだけ観光客が泊まれたかを確認することがということが非常に重要だと思います。ですので、外国人の宿泊者数を挙げてらっしゃいますけど、外国人だけではなくて日本人も含めた宿泊客数というものが成果指標にされた方がいいのではないかと思います。

私からは以上でございます。

○議長（山本会長）

はい、ありがとうございます。それでは、2 件ございました。

まず電子化、ICT 利活用、このところについては政策部の方で答えいただくのでしょうか。

○政策部長

政策部長の藤原でございます。

私の方から、現行システムが 5 年間延長の件について、ご回答申し上げたいと思います。

この 5 年間延長の判断は、現在、松江市にございます 150 以上のシステムの現状の把握を行うこと、それから国の動向をしっかりと見極めること、それからこの間の技術革新の進展について把握したうえで対応したいという思いがございまして、5 年間延長することを ICT 推進委員会で協議して決定をさせていただいたところでございます。

この間、もう一つの要素として新庁舎建設の問題もございまして、どの段階でどういう形でシステムを入れていくのかということも非常に大きな要素でございましたので、5 年間の延

長という判断をしたところでございます。

ただし、廣田委員おっしゃるとおり、国の動向というのが昨年の段階では不明でございましたが、今年になりましてから具体的な政策、方針というのが、徐々に示されてきております。この5年間延長の契約も令和3年度に行うことにしてございますので、その国の動向を踏まえて、柔軟に国の方向性に対して対応できるような形での契約を結んでまいりたいと考えているところでございます。

それから、基礎自治体である私どもの住民の利便性の向上ための意見を積極的に届けるべきということでございますが、中核市市長会におきましても、この電子化の推進でございしますが、society5.0時代における社会的課題解決に向けた検討プロジェクトがございまして、当市はこれに参画をしております。

この中核市市長会における議論をしっかりと提言という形で国に届けることにしておりますし、そのほか、全国市長会などを通じて、国に対して、私どもの思いを積極的に伝えてまいりたいと考えてございます。以上でございます。

○議長（山本会長）

はい、ありがとうございました。

もう一点、広域連携のところで、KPIに日本人宿泊者数を加えたらいいのでは、この意見について、これは、観光振興部でしょうか。

○観光振興部長

観光振興部長の高木でございます。よろしくお願いいたします。

廣田委員の方からご提案をいただきました成果指標でございます。

委員ご指摘のとおり観光客に圏域を周遊してもらうためには、圏域内に宿泊していただく、それから、圏域内での滞在日数を増やしていく、これが重要だと思っております。従いまして成果指標に、全体を表記させていただきまして、今後は、国内、国外を内訳で示していく、そうふうに変更させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（山本会長）

はい。廣田委員よろしいでしょうか。

○廣田委員

わかりました。ご説明、どうもありがとうございます。

○議長（山本会長）

ありがとうございました。次に移りたいと思っております。勝部恵治委員、よろしくお願いいたします。

○勝部恵治委員

失礼いたします。私の方から事前にお出しいたしましたご質問なんですけれども、今、事前に資料をいただきまして、これまで、松江市さんの行財政改革の取組、非常に大変ご苦労なされて大変だと思うのですが、こういったような成果を出されたというようなことが、ご報告内容だったと思います。これは大変敬意を表しますとともに、大変素晴らしいことだと思っております。

その上で、こうした成果があった上でも、今後引き続き、様々な松江市さんの課題があることを行財政改革に取り組みられると思うのですが、その上で、今後、冒頭の挨拶で市長さんもおっしゃいましたけれども、人口減少対策に取り組みられるということですので、今後のこととして、これからどういうふうなことをこの行財政改革の成果を使って対策に生かしていけるのか。どのような具体的な成果を目指していけるのでしょうかということの一つ目のご質問としております。ちょっと加えますと、私、PTA 連合会の代表ということで、そうした目指される成果の中に、例えば教育ですとか、子育てですとか、そういったことがどのように含まれているかご説明いただくとありがたいなと思っております。

それと2つ目ですけれども、新型コロナのことですとか、近年の災害頻発化とかといったような今までにはないような社会情勢の大きな変化がございますので、今、この会議は、行財政改革ということではあるんですが、要はそういったようなものに対応するには少し行革に逆行するような対応も、もしかしたら必要ではないかなということもありますので、そうしたものに対応する場合に、例えば住民サービス機能を維持するために、集中していたものを分散化するですとか、その他幾つか何か対応することがあるかと思っておりますので、そういったようなことも、もし今、考えがあるようでしたら教えていただければという質問です。

以上2点よろしく願いいたします。

○議長（山本会長）

はい、ありがとうございます。

それでは2点、それぞれご回答いただきたいと思いますが、始めのご質問、これは政策部の方でしょうか。

○政策部長

政策部長の藤原でございます。

○議長（山本会長）

お願いします。

○政策部長

1 点目のお答えでございます。人口減少対策は長期にわたる取組となりますことから、厳

しい財政状況の中でございますが、こういう行財政改革をしっかりとさせていただきまして財政の健全化を図り、プライマリーバランスを保ちながら継続的、安定的に地方創生を推進していきたいと考えております。

具体的な取組といたしましては、冒頭、市長からもございましたが、第2次総合戦略におきまして、「若者・女性がもっと暮らしやすいまちを目指す」、それから、「新しい時代の流れを力にする」、これはIT化のことでございますが、こうしたことを重点項目掲げておりまして、若者に魅力ある雇用創出、出産子育ての希望を叶える取組、Society5.0の推進といった分野に力を入れていくことにしております。

具体的な成果指標につきましては、令和6年度までの5年間で、延べ690名の雇用を創出する。それから、UIターン者数は、1年間で1445名という数字を出しております。それから、地元就職者数、高校生は年間266人、大学生は435人、それから、アンケートを毎年実施しているわけでございますが、子育て支援策の満足割合、これを80%という目標を掲げております。

また、松江市全体の住みやすさの実感割合を95%という数字を掲げて成果指標をそれぞれ定めて、皆さん一体となって目標を達成するために努力していくということにしております。最終的に、「選ばれるまち松江」というのを大きな課題として掲げておりますので、その実現を図っていききたいと考えております。以上でございます。

○議長（山本会長）

ありがとうございます。

もう一件、ポストコロナに対して行革は何かお考えでしょうかということでございます。これは総務部の方でしょうか。はいどうぞ。

○総務部長

総務部長の講武でございます。

コロナ禍の中で、行革の見直しをされないのでしょうかというご質問いただきました。

今回、コロナ禍の対応におきましては、通常時と違いまして、非常時の対応が必要でございました。

松江市におきましては、この対応をオール松江市として、部局を超えた応援体制などで、人的な対応を的確に行って、今やっているところでございます。

その中で、BCP業務継続計画におきましては、委員ご指摘のように、支所や公共施設を必要に応じて効率的に活用するという事は非常に大事な事だと思っております、そういった場合には我々もその活用を想定しながら、準備をしているところでございます。

公共施設の適正化といいますと、いかにも施設を減らすというようなイメージがありますが、それでも、例えば今進めております、支所と公民館の統合を進めていますが、統合した上で、連携をし、機能は落とさないように取り組んでおります。災害時にも活用できるような形で

取り組みたいと思っております。

今後、起こり得る災害は、今回のような感染症、また自然災害、様々な場合が想定されますので、それぞれに対しまして、万全の体制をとっておくことが重要ではございますが、限られた財源の中、組織、施設等の見直しは、引き続き取り組む必要があると考えております。

様々な災害を想定しながら持てる施設の有効活用を図り、人的体制も臨機応変に対応できるように取り組んで参りたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

○議長（山本会長）

はい、ありがとうございました。勝部委員いかがでしょうか。

○勝部恵治委員

ありがとうございました。

○議長（山本会長）

今の勝部委員のご意見、ご質問と、それから、総務部の方からの回答と、こういったことについて、他の委員の皆様方から特に何かあればお伺いしますが、よろしいでしょうか。

それでは次のご意見、ご質問にいきたいと思います。野々内委員。よろしくお願ひしたいと思います。事前に5つほど、たくさんいただいておりますが、冒頭申し上げましたように、時間が限られておりますので、2つ程度に優先順位をつけて絞っていただいご発言いただければと思います。勝手なことを申し上げますが、よろしくお願ひします。

○野々内委員

初めてですので失礼なことがあるかもしれませんが、お許してください。

まず最初にこの資料を見ましたときに、スペシャルも合わせまして、A判定がほとんどということに驚きました。反対にBが目立つとかそういうことがございました。その中で私は、いただいた資料の、5ページの下のところ、基本方針の中に、③で職員の力を最大限に引き出す仕組みづくりと意識改革という言葉があります。これに関して、どういうことかなということ、一番興味を持って見させていただきました。

それで、ページでいきますと、106ページ、114ページ、116ページのところの職員の人材育成とか、仕組みの見直しのところですけども、私は行政というのはサービス業の一番のスペシャリストでなければいけないという気持ちがあります。なので、支所とか本庁に来られた方が気持ちよく、自分の問題点を解決して、気持ちよく帰っていただくということが一番の大事な仕事ではないかなと思っておりますけれども、そういう窓口体制のことに対して、どういうふうにお計らいして、教育してらっしゃるのかなということ。それから、人材育成はどういう目標とか、観点からされるのか、能力発揮とはどういうことか知りたと思います。

それから、アウトソーシングをされることで、財政が本当に潤っているところがよくわかりました。ただ、それと、職員の人材育成というのは、どういうふうに関係するのかと、ちょっと言葉が足りませんが、そういうことを少し不思議に思っております。

それから、ちょっと社協の立場で出ていますので、もう一度これを読ませていただいたときに、50 ページです。地域における要配慮者支援体制の構築というところがあります。

ここはB判定になっています。このよう配慮者支援事業が、平成 23 年度から始まっておりますが、確かこれをやる時に、立ち上げの時に 10 万円の補助が出ています。

地元で考えますと、例えば地区社協では、生活支援会議というのが長年行われている地域とか、それから私の地域では見守りネットワーク事業というのを長くやっております。そういうこととこの要配慮者支援事業というのが、本当は同じことではないかと、やる方も、支えてもらう方も、支える方も、みんな地元の人ですから、そういうのを横断してという言葉がありますけれども、もうちょっと見直して、これとこれはイコールですよというふうに、住民にわかりやすい説明があると、全ての地域でこれができるのではないかと考えています。自主防災組織というものを作っていきますけれども、これは有事、災害の時の自主防災ではありますが、要支援は有事の時ではありますけれども、活動するのはみんな同じ者ですから、その辺の何か言葉だけとか、縦割りではなくて、同じことだよということが住民にわかるような説明をしていただきたいなと考えています。

以上 2 点です。

○議長（山本会長）

はい、ありがとうございました。

それでは最初の方、人材育成に関することは、総務部の方でしょうか。

よろしく申し上げます。

○総務部長

人材育成につきましては、職員の採用から退職までの各成長段階に応じまして、それぞれ必要な役割や意識、姿勢、能力を設定し、それを習得できるように、人事管理、職場づくり、職員研修の 3 つの観点から、人材育成の将来を見据えた育成を進めているところでございます。

委員おっしゃいますように職員が基本マインドとして、「松江市への高い誇りと深い郷土愛」を掲げて、創造性、住民主体の意識、自立性、コスト、危機管理意識を備えた職員像を目指して人材育成を行っているところでございます。

能力の発揮といたしましては、ワンランク上の行政の実現のために不可欠なものと考えておりまして、職員の能力を最大限に発揮し、市民サービスの向上につなげることでと考えております。

窓口の対応ということでございましたが、基本的に電話対応とか、会議の司会とか基本的

なことへの教育といいますのは、職場内研修、いわゆるOJTにより、職員同士での指導を中心に実施をしているところでございます。

あわせて、職場外研修といたしましては、島根県の自治研修所主催の研修に職員を派遣し、接遇やビジネスコミュニケーションや会議の進め方を学ぶ機会を設けているところでございます。

今後とも、職場外研修とあわせて、充実したOJTを展開できる仕組みづくりに力を入れていきたいと考えております。

もう1点アウトソーシングと職員の人材育成ということでございました。

市としましては設備の保守とかシステム保守等委託や、市の公共施設の管理を行う指定管理といった多くのアウトソーシングを行っております。

市で対応が難しい専門技術が必要なもの、民間のノウハウを活用した方が成果が高いものは民間にお願いをしており、直営の場合との費用対効果を確認しながら行っているところでございます。民間委託等を行った業務は、市が定期的に業務状況を確認し、仕様、契約に沿った業務が実施されているか確認をしております。

委託や指定管理においては、業務内容に、検査や評価といった確認機能が重要となりますので、管理する側といたしましての知識が継承されるように取り組んで参りたいと考えています。以上でございます。

○議長（山本会長）

はい。ありがとうございます。

もう1つ、福祉の方、これは福祉部の方で。はい、お願いします。

○福祉部長

福祉部長の湯町でございます。よろしくお願いたします。

要配慮者支援組織の構築ということでご質問をいただきました。

ご存知のように、地域には様々な組織が設置されておまして、それらの団体ですけれども、町内会・自治会ですとか、公民館などをベースとして構築され、設置されております。

お話いただきましたように、自主防災組織ですとか、介護の関係でいきますと第2層の協議体、要配慮者支援組織もそういった組織を母体として、設置をされてきております。

それぞれが緊密な連携をとりながら、実際それぞれの組織、団体で活躍しておられる方も、ご指摘いただきましたとおり、重複していらっしゃる方もいらっしゃいまして、活動を推進いただいているという状況でございます。

自主防災組織でございますけれども、災害発生時の対応、活動、それに向けた日頃からの訓練などが中心的な活動になっていると思います。

要配慮者支援組織はどちらかといいますと、日頃からの見守り、声掛けなど生活支援等が中心です。災害発生時は、情報伝達ですとか避難者の支援が中心の活動となっております。

第2層の協議体につきましては、地域での支え合い、介護予防などが主な活動となっております。

ご指摘のとおり、非常にそれぞれの役割がわかりにくいということもあろうかと思えます。それぞれ団体で、共通する講習会、研修会などを同時に開催されるという項目もございますけれども、それぞれの組織を実際ひとつにまとめて活動しておられる地域もございますし、役割分担をし、負担を分散するという格好で運営をされている地域もございます。

でございますので、松江市といたしましてはその地域の実情、お話を伺いながら、立ち上げの支援を行ってまいりたいと思えます。

今ここでも話しましたがけれども、似通った部分もたくさんございますし、違った部分もございます。防災安全部、市民部、福祉部、関係部局が連携して、より分かりやすい説明に努めてまいりたいと思えますので、よろしく願いいたします。

○議長（山本会長）

ありがとうございました。野々内委員よろしいでしょうか。

○野々内委員

はい。よろしく願いいたします。

○議長（山本会長）

今のことについて他の委員の方々から何かございましたら。よろしいでしょうか。

はい。それでは、勝部廣三委員お願いします。

○勝部廣三委員

はい、勝部です。それで私の方から、1つだけ、窓口についてということで、お聞きしたいと思えます。

多様な公共サービスの提供ということで、44ページはですね、アウトソーシングの推進ということがありまして、それから58ページにワンストップサービスの実現に向けた窓口改善とあります。同じ窓口ということでもありますけども、アウトソーシングをですね、私はどこまでがどうなのかなと、本当に民間委託をしてもいいのかなと、要は信頼性の問題とかそういうところは、たぶん先進事例をあちこち把握しておられるので、聞いておられるとは思いますが、やはり信頼性が一番なので、市民からすれば、市役所というのはある程度信頼があるというのが前提ですので、ですから民間に出すのも本当にどうなのかなという思いがあります。

それからワンストップサービスは私も経験して、いいなと思って、これは本当にやっていただけたらありがたいなと思っていますけど、ここは進めていただきたいと思えます。

それから、窓口はどちらなのかと、アウトソーシングの方は、行革の推進課が、ワンス

トップの方は市民部市民課ということで、窓口は、やっぱり同じようなところで、同じ一つの中でやっぱり、会議といいますか、物事を進めいくのがいいのではないかなというふうに思っています。

3次の基本方針の中でまた同じように分かれておりまして、市民サービスの質の向上とか、最大の効果を生み出す行政運営の実現ということで分かれていきますので、やっぱり3次にもなれば、もうそろそろ1つにまとまって、窓口をどうするんだというところを議論していただければありがたいかなと思っています。

今の新庁舎の問題もあってなかなか難しいところがあったかもわかりませんが、そういう検討をいただければありがたい。

それから、今のアウトソーシングで民間というのがありますけど、これはちょっと私の私見でありますけども、公民館のあり方ということを考えていただいて、公民館をどう活用するか、要はアウトソーシングの関係で、公民館を使っていけるのではないかなというふうに私は思っています、公民館ならば、支所の業務だとか、市役所の業務、そういうところもできるのではないかなと、人材の問題もありますけども、そういうところを検討いただいたらありがたいなと思います。以上です。

○議長（山本会長）

はいありがとうございます。それでは市の方からお答えをいただきたいと思います。それぞれ中の計画のところでは担当者が違うようになっていますのですが、一括してお答えいただくか、どちらでも結構です。片方はアウトソーシング、片方はワンストップというような内容は違うけども窓口の現場視点から合わせた方がいいのではないかなというご意見だったと思います。どちらでお答えいただきますか。

はい、どうぞお願いします。

○事務局（行政改革推進課長）

失礼いたします。事務局で行政改革推進課の大西と申します。

先ほど委員のご質問でございますが、まずアウトソーシング、ワンストップサービスの連携、協力といったようなことでございますけれども、民間委託は、職員数と経費の減、また、民間ノウハウの活用など、効率的な行政運営を目的としたものでございます。

一方、ワンストップサービスというものが、窓口をわかりやすく、また、待ち時間を短縮するなど、市民の利便性を高めていこうということを目的としたものでございます。

先ほど信頼性を高める必要があるというふうにおっしゃっていただきましたとおり、それぞれ目的の項目を分けまして、進めているところでございますが、検討につきましては、一体的に行う必要があるというふうに考えておりまして、総務部が中心になりまして、いろいろな窓口がございますけど、その窓口担当部署と一緒にワーキング会議を設けております。そのワーキング会議の中で、連携、または協力をしていけるような取組を現在進めて

いるところでございます。よろしく願いをいたします。

○議長（山本会長）

はい。ありがとうございました。

勝部委員いかかでしょうか、よろしいでしょうか。

○勝部廣三委員

はい、よろしいです。

○議長（山本会長）

ありがとうございました。今の話題について何か他の委員でご意見がございますでしょうか。よろしいですか。

はい。それでは、次に塩谷委員、お願いいたします。

○塩谷副会長

よろしく願いいたします。私はまず一つ、ちょっと全般的なお話から行くのですけれども、このお送りいただいた報告書、非常にコンパクトにまとめるというところがポイントになってくるのでバランスが難しいものかもしれないです。しかし、その政策についてあまり知らない人でも伝わるように、もう少し情報を盛り込んでいただくと、取組の内容というのがよく伝わって良いのではないかというふうに思っております。

例えばというところで、質問を兼ねてということで一つお話しさせていただきますと、この報告書でいきますと11ページのところになります。

11ページの方の、前年度の実施報告ということで、ファミリーサポートセンターの事業について書いてくださっているのですが、例えばその中に書いてある、平成30年度は4名選出していたサブリーダーを廃止して、ゼロとしたというところなんです。こういった取組をされて、それがどんなことに繋がったのか、どういった成果が得られたのかというのが知りたいと思ったところです。

ですので、そういった情報をもう少し入れていただくと、より伝わりやすくなって良いのではないかというふうに思いました。

それと、もう一つは、これはちょっとお願いなのですが、実施報告書をやはり専門外で読み込むのに結構時間かかりますので、もしよろしければ、もう少し早く、期間をいただいて、読み込む時間をいただけたらというふうに思っています。

以上2点です。よろしく願いいたします。

○議長（山本会長）

はい。ありがとうございました。

1 つ目は、子育て部の所管だと思うのですが、書きぶりをもう少し分かるようにということと、実際に、具体的にどうなのかということですので。よろしくお願いします。

○子育て部長

はい、子育て部長の船木でございます。

委員ご指摘のとおり、今の内容記述ではやはり情報量が少ないというふうに反省をしているところでございます。今後は、初めて見た方にもわかっていただけるよう、報告書を作成するように努めて参りたいというふうに考えております。

今回、例としてお出しいただきました、このファミリーサポートセンター事業でございますけれども、サポートセンターには支援をお願いいたします「お願い会員」と支援を行う「まかせて会員」こういう方々が登録をされるところでございます。

30年度までは、この「まかせて会員」の中から、毎年数名のサブリーダーを選出いたしまして、このファミリーサポートセンター職員の補助を行っていただいております。

このサブリーダーの方の主な役目と申しますかそれは「まかせて会員」を獲得するために、要は募集をかけて、「まかせて会員」を増やそうという、そういった、一般市民と会員の交流会の周知、それから、運営を担っていただいておりますけれども、なかなか近年、新規会員の方の獲得には繋がっていなかったという状況がございました。そういった中で、ファミリーサポートセンターの中で、令和元年度からは、このサブリーダーの選出を廃止いたしまして、この交流会の内容、運営方法の見直し、こういったものを図りまして、周知方法を市報や会員全員への呼びかけという形に変更したところでございます。

その結果、交流会への一般市民の参加者が増えまして、令和元年度は新たに20名の新規会員が登録されたということでございます。

あわせて、このサブリーダーにかかっておりました経費、これが削減できたというものでございます。

こういった形で始めから記述をすれば、委員にわかっていただけたと思っておりますけれども、今後は情報量に気を付けながら報告書を作成して参りたいというふうに思っております。以上です。

○議長（山本会長）

はい。ありがとうございます。

もう1点は、資料を早くもらえるか、あるいは、質問の締切りをもう少し遅くできないかということですが、事務局いかがでしょうか。

○事務局（行政改革推進課長）

はい。失礼いたします。事務局の大西でございます。

実施報告書その他資料の送付時期についてでございますが、このことにつきましては、昨

年山本会長様の方からもご指摘をいただいております。今回につきましては、できるだけ確認いただく時間を設けようというふうに思ったところで、資料を、昨年より早めて3週間前にお送りしまして10日程度の期間をとらせていただいたところではございますけれども、まだまだやはり改善点があるかというふうに反省をしているところでございます。

第2次行財政改革実施計画は、計画項目が75項目もございますので、皆様方にご覧をいただくのに、非常に多くの時間を、労力をかけていただいていると認識しております。そういったこともありまして、昨年度策定をいただきました第3次、今年度からスタートいたします第3次の実施計画につきましては、先ほど勝部委員もおっしゃいましたとおり、まとめられるようなもの、一体的に進められるものは、少し連携、整備をして進めたらどうかというふうなご意見もございましたとおり、整理させていただきまして、実施計画を43項目に整理をさせていただいたところでございます。

今後につきましては、記述内容の見やすさという点も併せまして、今後、来年度も含めまして、今後さらに方法の見直しを図りまして、改善を進めていきたいというふうに考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本会長）

ありがとうございます。随分これまでよりは早くいただいています。回答期限が十分でないというご意見ではないかと思えます。また、回答は準備されるのにそれぞれ大変お忙しいでしょうけれども、そのところを頑張ってください、もう少し閲覧期間を取れるようにというご意見だったと思えます。

塩谷委員よろしいでしょうか。

○塩谷副会長

はい、どうもありがとうございました。

○議長（山本会長）

はい、ありがとうございます。今の件について、他の委員さん方、よろしいでしょうか。それではもう一方、三宅委員お願いします。

○三宅副会長

はい、公民館長会の三宅でございます。まずもって、行財政改革、合併して15年前に比べて、当時1,500億円以上あった地方債務の残高が1,100億円程度まで圧縮するという、本当にこれは市長さん以下、財政担当の方々のご尽力のたまものであると思っておりますし、なおかつ50億円程度の基金も確保していらっしゃる。そういった意味では、実質公債比率に繋がってまいりますし、財政健全化の5年間は元より、この15年間努力をされたのだなということがよくわかりました。その行革というのは、端的に言えば一般の方は削ればよいとい

う感覚があるのですが、実は、その削ったものをどう使うかというほうが、実は大事なので、そこで生み出した財源をどのようにお使いになるかということを実はもう少しアピールしていただけるとよかったですかなと思っております。

そうした意味で私からは2点、1つは単独補助金のことでございます。18ページの件でございますけれども。単独補助金というのは当然、市の独自財源で事業をやるわけでございますので、財政負担の増大につながりますので、当然、これは削減するという方向については、是とするものでございます。しかし、単独補助金というのは、それなりに、やはり理由がございまして、存在意義があると思っております。例えば、国や県が届かない、そういった分野に基礎的自治体である市町村が手を差し伸べる、あるいは地域で先導的な事業に着目をして手を差し伸べる、そういったような意義があると思っております。したがって、単に単独補助金を圧縮するというのではなくて、何を廃止をして、何を新たに作るのか、そういったところが行政のセンスと言いますか、そういったものが問われると思っております。そこでご質問します。

1つは令和元年度の単独補助金の総額を教えてくださいと思っております。それから令和元年度中に新たに廃止をした単独補助金、あるいは、新たに創設をされた単独補助金、そこらについて教えてくださいというのが1点目でございます。

それから2点目は28ページになりますが、温泉施設等の利活用の件でございます。このデータを拝見しますと、だいたい全ての施設が5年間で約10%程度の利用人員が減っているということがございます。それで、いずれもできて20年以上、30年が経ちますと施設の老朽化というようなこともございます。加えて来年以降、今年のコロナによって、市民税等、大幅な減収が当然のごとく襲ってくると思いますし、それを補填する交付税特会も交付税算定が減収になりますので、交付税がその減収分に補填していただけるかどうかかわからない。つまり、3次計画の間というのは、かなり税収面での減少が危惧されるということになります。そういうような利用者減、施設の老朽化、あるいはそれを支える財源面での減収というようなことを考えますと、非常にこれは大きな問題になってくるのではないかと思います。そこでご質問します。1つは現在における指定管理料の総額、それから利用料金収入がどれくらいあるのか、それから、施設の今後の老朽化に対する対応方針、そういったものを含めてお伺いできればと思いますので、よろしくお願いをいたします。

○議長（山本会長）

ありがとうございました。

単独の補助金の質問、これは財政部ですか。2点目は温泉宿泊施設のこと、これは観光振興部、それぞれお答えをお願いします。

○財政部長

財政部長の山内でございます。

私の方からの補助金の見直しについてということで、単独補助金の総額と廃止した具体例、新設した具体例ということで、令和元年度の状況ということでございましたが、あらかじめのご質問では近年の情報ということでいただいております、平成 29 年度まで遡って年度ごとにお答えさせていただきたいと思っております。

令和元年度でございますが、単独補助金の総額は 15 億 6200 万でございます。それで、30 年度にあって元年度になくなったものということでございますけれども、松江食まつりというものがございまして、その実行委員会に助成していたものを廃止いたしましたり、大きなものでは、これはイベント補助でございますけれども、前年に世界少年野球とか、世界シニアバスケットというものがございました。そこに補助をしております、そういったものが、なくなったということでございます。

逆に創設したものでございますけれども、1 つは松江スマート農業の推進事業というもので、農業での AI とか RPA 等の活用の検討のために創設しておりますし、林業の林業事業体の担い手の補助金というのも、創設しております。これは新設されました森林環境譲与税の活用等、見込んで創設したところでございます。

それから平成 30 年度でございます。30 年度は単独補助金の総額が 17 億 4,800 万円あまりでございます。この年度につきましては中核市になったということで、新規補助金が増えているということがございます。廃止のものでございますけれども、1 つは、インド IT 人材確保・企業連携事業というのが、廃止いたしましたものでございます。これについては、事業自体を、圏域各市と連携して取り組んでいるため、廃止いたしまして、圏域の市長会の補助金に振り替えたものでございます。それから松江市大学進出促進事業という補助金は、本市で進出を予定していた大学のサテライトオフィスの運営に対する助成でございますけれども、取りやめとなったということで廃止しております。

逆に新設したものににつきましては、地域版まちづくり総合戦略事業補助金で、これはずっと存続しております。地域づくり活動してもらうための補助金を新設しておりますし、それから事業補助でございますけれども、国宝松江城マラソンですかね。創設しております。

それから平成 29 年度でございます。単独補助金の総額が 15 億 7900 万円余りでございます。廃止したものににつきましては、高齢者生きがいつくりの事業ということでございまして、補助期間を設定していたため、一定の成果が出たということで、廃止したものでございます。

それから新設といたしましては、本社機能移転拡充促進事業ということで、雇用の場創出のための企業の本社機能の移転拡充に対する助成制度を新設したものでございます。

以上でございます。

○議長（山本会長）

ありがとうございました。それではもう 1 点の方、観光振興部でしょうか。

○観光振興部長

はい。失礼します。観光振興部長の高木でございます。

温泉宿泊施設関係のご質問をいただいたところでございます。

まず、ご質問の最初の方、指定管理料の総額でございます。令和元年度実績で、4施設で3,688万3,000円でございます。この4施設ではございますが、多久の湯、ゆ〜ゆにつきましては、指定管理料は0円指定管理施設でございます。従いまして、実質、熊野館と宍道の大森の湯、2施設の指定管理料の総額となっているところでございます。

合わせて、この4施設の令和元年度の利用料の収入総額は、3億1,170万円余りでございます。しかしながら、平成28年度、2年前の実績が3億4,390万円余りということで、この2年ほどのところで3,200万円ほどの減収となっているのが現状でございます。

今後の施設のあり方、その他のところでございますが、今年度につきましては、令和2年度上半期、新型コロナウイルス感染症の発生により、大きく影響を受けております。上半期は、10万人を少し超える11万人弱が4施設でご利用で、対前年比は38.5%というのが、現状でございます。現在、一定落ち着いておりますので、回復傾向ではあります。まだ、6割、7割程度というのが、現状でございます。

まずは、今、施設の運営状況を指定管理者と一緒に見ながら、コロナ禍以前の状況に、きちっと回復させることが、最優先であるということで、運用しているところでございます。

コロナ禍という状況でございますが、今、近場での癒しやマイクロツーリズムというものも提唱をされているところでございます。そういった意味で、市民にとっては利用していただき、癒しを求めていただける施設として、再度、アピールし、地域の再評価をしていただく、そういったことも含めて、取り組んでいこうというふうに考えております。

今後は公共施設適正化計画第二期計画、この表にも記載しておりますが、今後のあり方を市民ニーズとのバランスを考えながら、施設の将来について検討を行っていきたいと、このように考えております。以上でございます。

○議長（山本会長）

はい、三宅委員よろしいでしょうか。

○三宅副会長

ありがとうございました。

○議長（山本会長）

はい。あと10分少々になってしまいましたが、もう1人、大塚委員からもご質問いただいたのですが、ご欠席ですので、個別に回答願いたいと思います。時間がありませんでしたらここで御披露いただきたいと思います。

まだご発言いただいていない委員の皆様方3名ほどいらっしゃいますので、何かございま

いしたら、あと 10 分程度しかございませんがお願いします。

はい。それでは岸本委員お願いします。

○岸本委員

ありがとうございます。事前に登録しておりませず申し訳ございません。

まずもって、コロナ禍におきまして緊急事態宣言発令下においても仕事を止めることができない職種であり、また地域の住民からの相談、手続、こういったことを、まさにフロントラインで住民の方と接するというところで、感染リスクと向き合いながら業務に従事してこられた市の職員の方に対して感謝申し上げ、敬意を表したいと思っております。そうした点を踏まえまして、114 ページの人事評価のところ意見です。前回の委員会でも少し懸念を申し上げたところでございますが、人事評価に対する職員の信頼度の目標値が 75%に対して、結果が 50%を下回って 40.3%ということでございます。やはり、ここは一つの懸念としましては、やはり 5 か年計画を掲げているところで、5 年スパンでアンケートを取るとなかなか修正が難しいということを感じたところでございます。一方、評価者に対する信頼度の向上は図れているということで、ソフトの充実は図れているということであれば、次はハードの充実が必要になってくると思います。人事評価制度、これは、やはりマンパワーを発揮する上で最大の根幹となるところでございますので、職員の声を吸い上げながら、職員の満足度が高まる人事評価制度を構築していただきたいと思っております。以上でございます。

○議長（山本会長）

ありがとうございました。何か総務部の方で、特にご質問ということではないですけどもご発言を頂けましたらお願いいたします。

○総務部長

アンケートを取りましたところ、この報告にも書いてございますけども、上司は公平な人事評価を行っているかというところは 76.4%でございまして、非常に高い評価だったのですが、この評価制度そのものについて、40.3%ということで、低い数字が出てまいりました。

我々としましても、これは非常に重要なところでございますので、今後とも、改善等も含めて検討していかねばいけないと考えています。まず職員の思いを十分に酌み取るということが大事だと思っております。今年度から、全部局ごとに、部長、課長も入りまして、若手職員とのコミュニケーションを取れるような場を開催するようにしたところでございます。

今後とも、職員の十分な思いをくみ上げながら、また、公平公正な評価ができるような仕組みを築き上げて参りたいと思っております。ご指摘ありがとうございました。

○議長（山本会長）

ありがとうございました。

そのほか、何かございますでしょうか。はい、それでは松村委員どうぞ。

○松村委員

すみません。山陰中央新報の松村です。

私も今のところが気になっておりまして、ご質問させてもらおうと思ったところで、具体的に数字が下がった原因というのは、どう分析されていますでしょうか。

○総務部長

アンケートでございますので、確証を持ったものはないのですが、評価書には、評価プラス、本人の希望を書く部分もございます。

様々な職員の思いを酌み取るために、自由記載欄がございますけれども、なかなか全て希望どおりになるということは難しいところもございまして、そういうことも原因の一つかなとは思っています。いずれにしても、評価する側の管理職と職員とのコミュニケーションを、十分取れる体制を作って、職員との信頼関係をもっと上げていきたいと考えています。

○議長（山本会長）

松村委員よろしいでしょうか。

○松村委員

ありがとうございます。

○議長（山本会長）

ありがとうございました。あと一方くらい。山口委員は特にご発言がなかったですがよろしいですか。もし何かございましたら。なければないで結構でございますが。

○山口委員

初めてで様子がわからなくて、まずこの資料を読み込むのに、先ほどありましたけど大変だなあと思いながら、素人が読み込むには膨大なと思っていたのですが、全体的な質問として、このコロナ禍で、企業などは特に、市でいうと税収でしょうけれど、企業でいうと収入の落ち込みというのが凄く大きくて、大変厳しい時代なのですが、税収の落ち込みはどの程度で、いつまで続くと思っておられるのかのかお聞きしたかったのと、あと働き方改革について国の方から言われてまして、その課題にすごく苦勞している段階なのですが、市役所の皆様も働き方改革の課題を保ちながら、この税収の落ち込みをどうやってメリハリつけて、バランスよくやるのか、お金の方の配分をどのように考えていらっしゃるかと、このよ

うな影響がいつまで続くとお考えなのかなと、お聞きしたかったところです。

○議長（山本会長）

ありがとうございました。なかなか難しい質問ですが、税収の見込みといったところで財政部の方、ございますか。

○財政部長

財政部長の山内です。なかなか将来のことを見込むのは難しいですが、実は毎年中期財政見通しというものを、この時期に前年度の決算を受けて、本年度を含めて5年間というものを作っております、この度も令和2年度の中期財政見通しを策定したところでございます。これにつきましては、来週のところで、記者に向けて、市民に向けてということになりますけれど、発表させていただく予定としていただいておりますので、その中で、もちろん税収、根幹的な財源でございますのでしっかりと見込んでいく必要があるだろうと思っておりますが、令和2年度ですね、コロナ感染症の影響を受けて、やはり厳しいものになるだろうと見込んでいただいております。

ちなみに昨年度の令和元年度の決算では、税収は291億8千万円ございまして、松江市では過去最高でございました。それが今の見込みでは280億円ぐらいでしばらく推移するのではないのかと、見通しを立てているところでございます。これも感染症が早く収束して、国、県や私どももいろんな対策を打っておりますけれど、効果があれば徐々に戻ってくると思われましても、感染症がずっと蔓延しておればそれも変わってくるわけでございまして、一定の条件の下に、国や県の経済状況の試算等を基に、置き換えてそうなるのではないかと作っているものでございます。絶えずこういった動きには注視して、いろいろな事業をするにあたっては、参考にしながら取り組む必要があると思っております。以上でございます。

○議長（山本会長）

ありがとうございました。ちょうど時間もほとんどなくなってきましたが、先ほど大塚委員がご欠席でと言っておりましたが、時間もございませぬので、いただいた質問は職員の人材養成ということなど、また個別にそれぞれの部署から大塚委員さんにはご回答いただきたいと思っております。今日、そういった話題も出ましたので、ここでは披露させていただきます。時間もございませぬ。

ありがとうございました。もうほとんど時間がないですが、特段にこれはということがあれば伺いたいですが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。大変駆け足で申し訳なかったですが、それでは、この議題はここでおしまいとさせていただきます。

6 その他

○議長（山本会長）

その他というのがございます。事務局の方から何かありますか。

○事務局（行政改革推進課管理係長）

事務局でございます。議題ということではありませんが、本日の会議録につきましては、市のホームページ等に公開することとなっております。そのため、会議録を作成しまして、ご発言いただきました委員の皆様にご確認いただいたうえで、山本会長に確認、署名をお願いしたいという手順で考えておりますが、そのような流れでよろしいでしょうか。

○議長（山本会長）

いま会議録について提案がございました。これは今までやってきた方法と同じやり方ですが、よろしいでしょうか。みなさん頷いていただいておりますので、そのように進めていただいて、皆さんに確認いただいた後に、私のほうで目を通して、署名をさせていただくということにさせていただきます。ありがとうございました。

そういたしますと、今日予定していたことをなんとか終えることができました。それでは事務局の方にお返ししたいと思います。

7 閉会

○事務局（行政改革推進課管理係長）

ありがとうございました。山本会長には、円滑な議事運営をいただき、誠にありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても、長時間にわたりご審議いただき、貴重なご意見をいただきましたこと、感謝申し上げます。

以上をもちまして、令和2年度松江市行財政改革推進委員会を終了いたします。

< 議 了 >